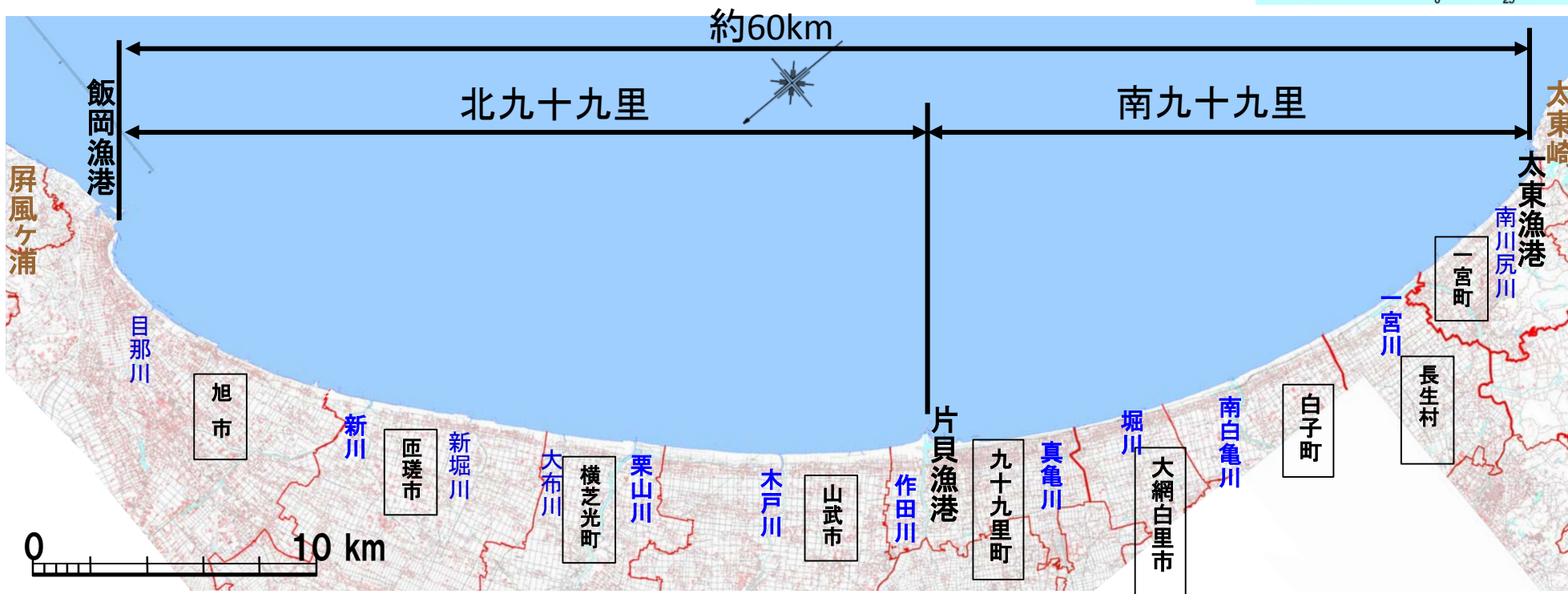


1. 九十九里浜の海岸侵食の現状について

(1) 本検討会における検討対象範囲について

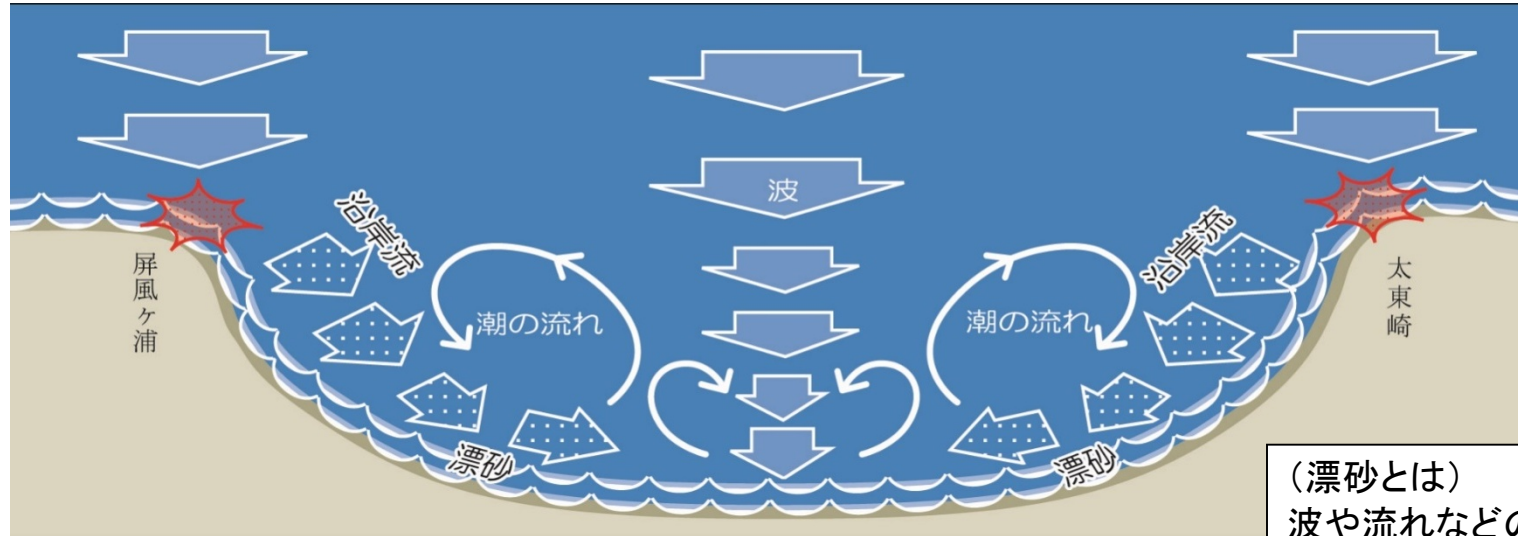
- 検討対象範囲は、飯岡漁港～太東漁港の約60km。
- 九十九里浜には、飯岡、片貝、太東の3漁港が整備されている。
- 本検討会では片貝漁港から北の範囲を『北九十九里』、南の範囲を『南九十九里』と記すこととする。



1. 九十九里浜の海岸侵食の現状について

(2) 九十九里浜の侵食のメカニズム

以前は、九十九里浜の北側の屏風ヶ浦と、南側の太東崎が侵食を受け、この砂が九十九里浜の砂浜を形成していました。しかし、国土保全の考えで、崖の侵食対策を行ったことから、1970年代から徐々に砂の供給が減少し、それに伴い、砂浜も後退をしました。



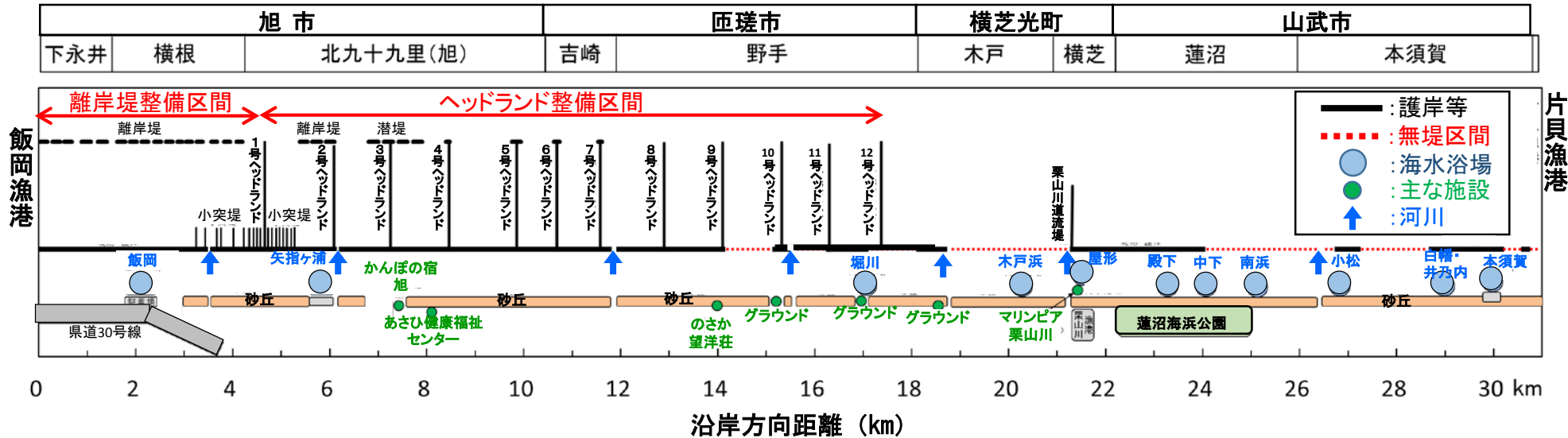
(漂砂とは)
波や流れなどの作用により、海岸や海底の土砂は常に移動しています。この移動している状態を漂砂といいます。漂砂量が大きいほど、土砂供給量が大きくなります。



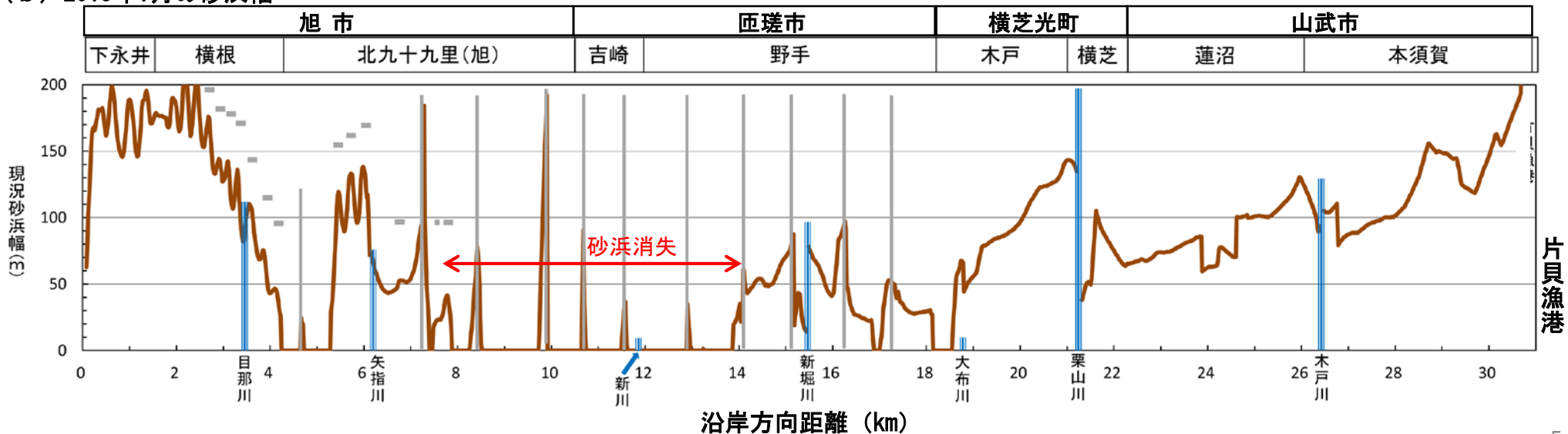
1. 九十九里浜の海岸侵食の現状について

(3) 海岸域の現況 ①北九十九里浜

(a) 海岸保全施設および背後地の主な施設の配置

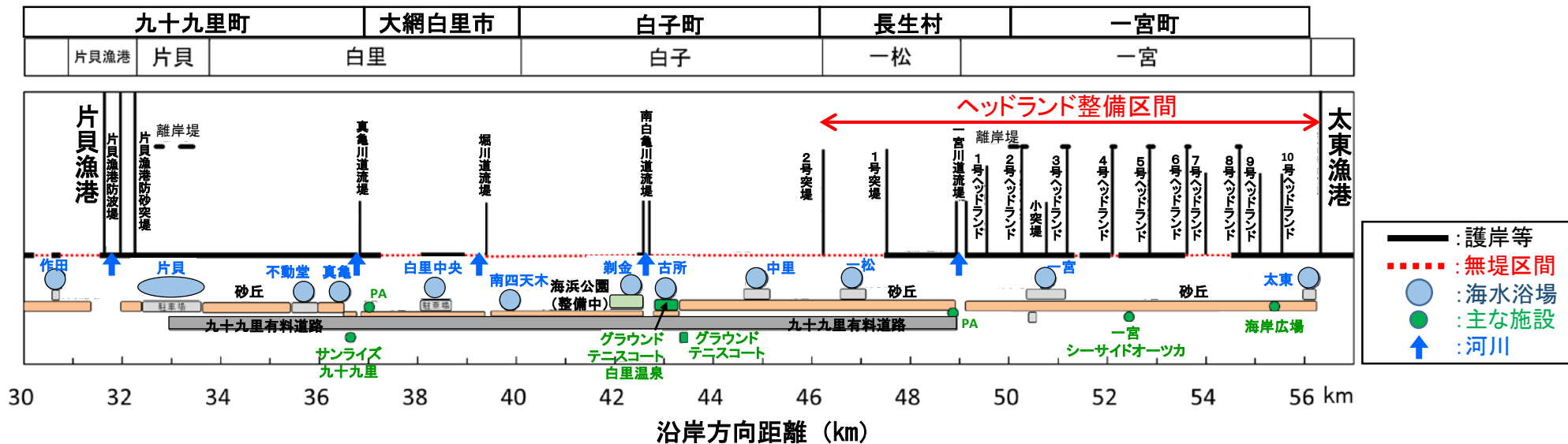


(b) 2015年1月の砂浜幅

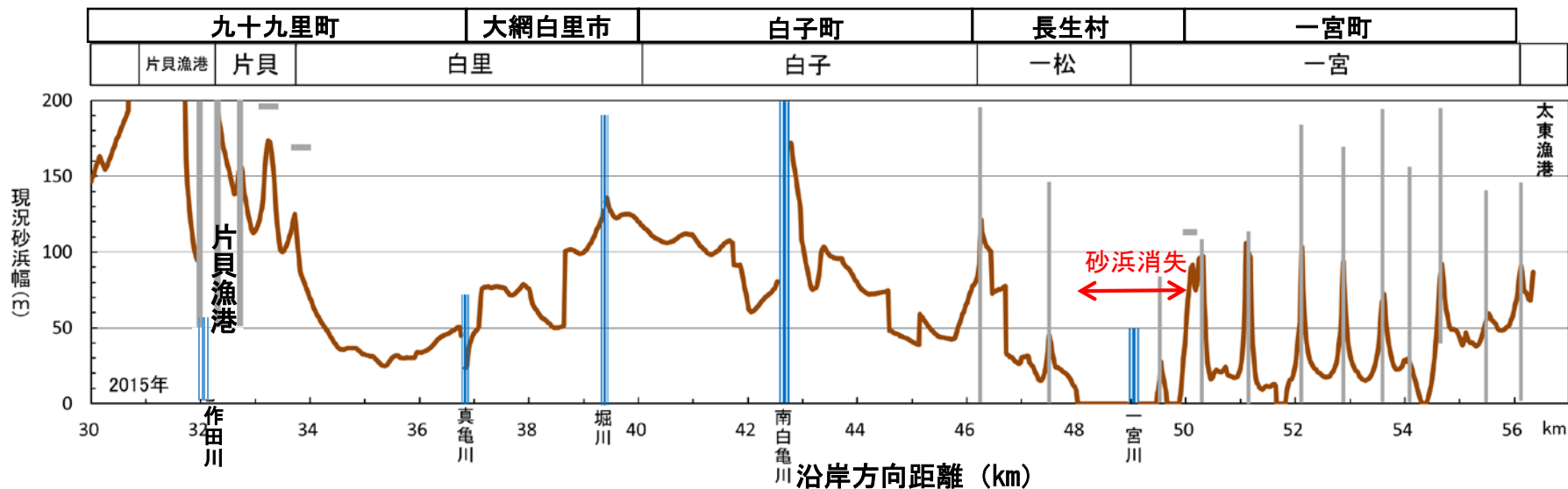


(3) 海岸域の現況 ②南九十九里浜

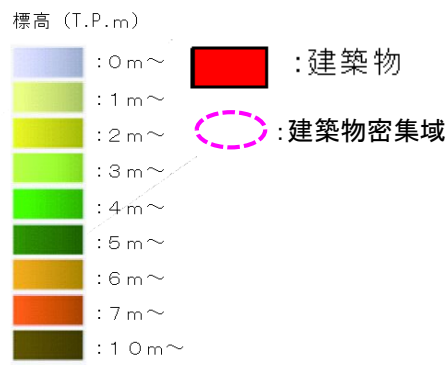
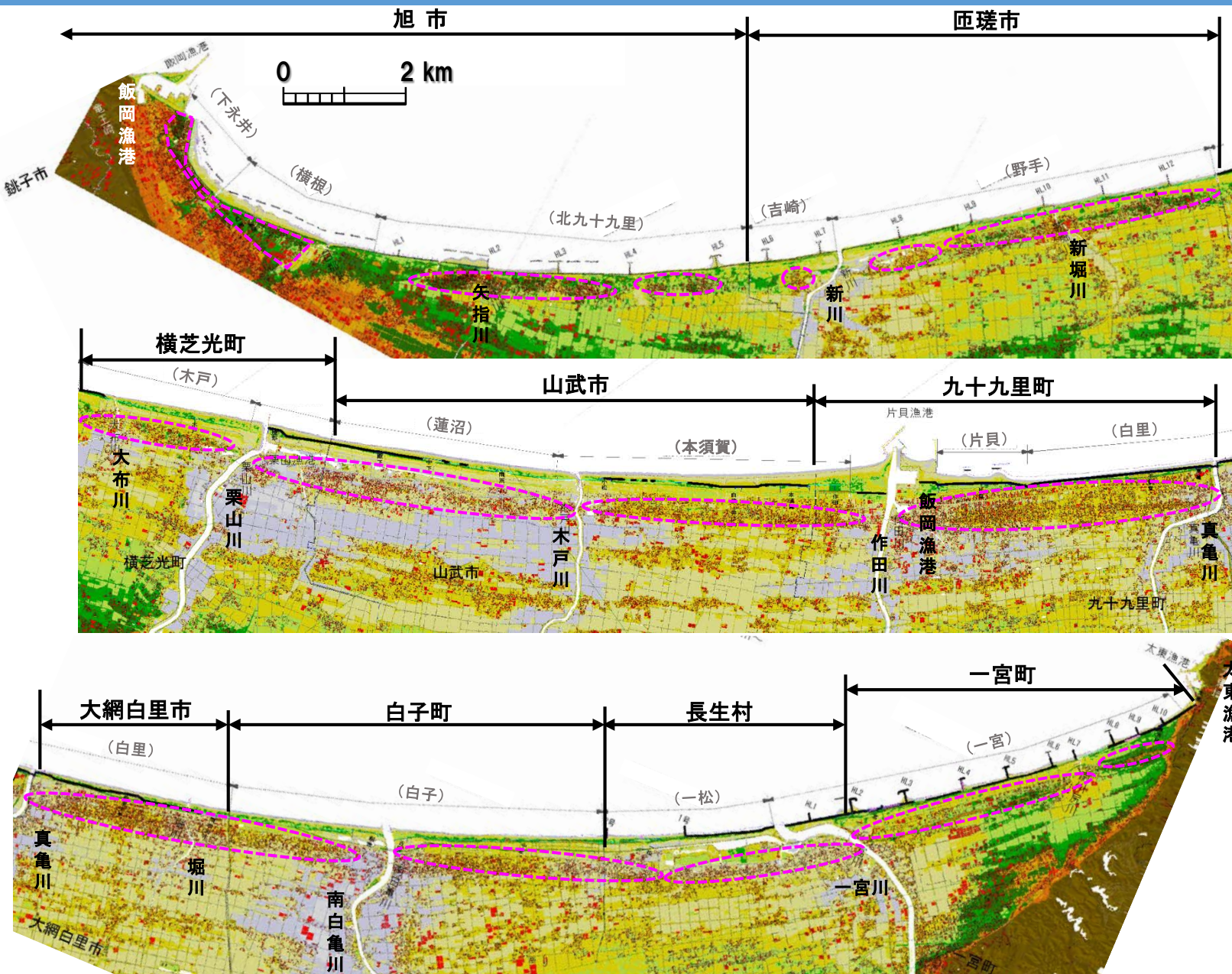
(a) 海岸保全施設および背後地の主な施設の配置



(b) 2015年1月の砂浜幅



(3) 海岸域の現況 ③背後地の状況



- 砂浜背後地の標高は、飯岡漁港～矢指川と太東漁港付近を除き、標高2m以下の低い土地が内陸まで広がっている。
- そのため、地盤の高い九十九里の南北を除く範囲では、砂丘や保安林背後に住居などの建築物が位置しており、海岸から近い位置に带状に集落が形成されている。
- とくに、新堀川周辺や真亀川～堀川では、他の海岸と比べて集落が海岸近くに位置している。
- 海岸に近い下永井は比較的標高が高い。

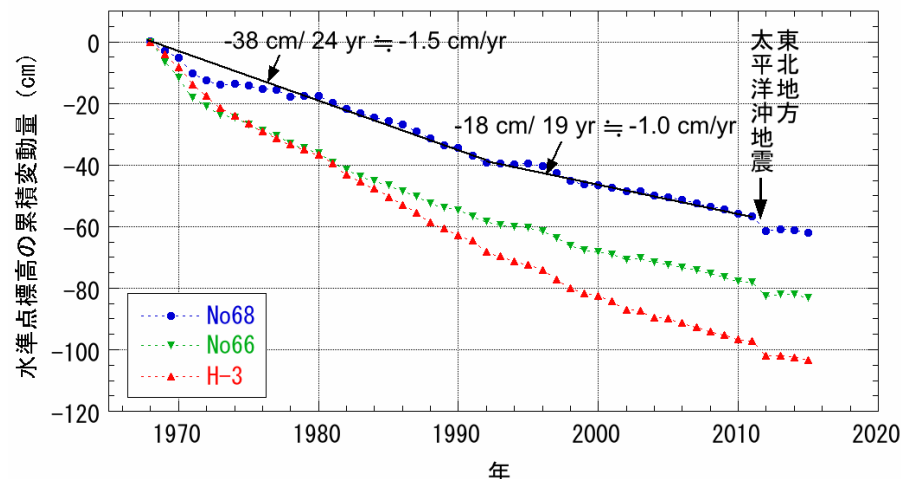
(背後地における地盤高と家屋の分布状況)

(4) 地盤沈下の状況

【九十九里浜沿岸の地盤高の観測点】



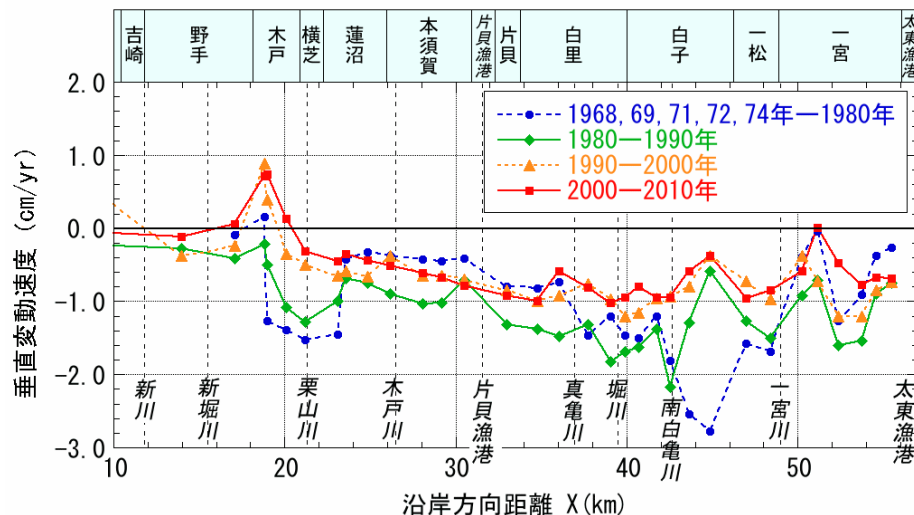
【1968年を基準とした累積地盤沈下量の推移】



【九十九里浜沿岸の地盤沈下量 (1974~2015年)】



【年代別の地盤沈下速度の沿岸分布】



- ・北九十九里浜では、栗山川以南で地盤沈下が顕著。南九十九里浜では、ほぼ全域で地盤沈下が進んでいる。
- ・堀川付近 (No. 68) の地盤沈下速度は、1970年代の1.5cm/年から1990年代以降は1.0cm/年に低減している。
- ・地盤沈下は南九十九里を中心に広範囲で確認されており、海岸侵食へ影響を与えている可能性が考えられる。